

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400716		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3373400716-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を山に囲まれ真庭市の自然を感じられる位置にわが施設があります。今までの生活と変わらない四季折々の景色を楽しみながら、利用者も家族も笑顔になれるような介護を目指しています。天気の良い日は裏庭に出て日向ぼっこをしたり、畑に色々な野菜を植えて、収穫したエンドウやさつま芋、玉葱等を使った料理を作り、できるだけ我が家のような暮らしをしています。そして桜の時期は施設周辺が見事に桃色に染まり、お花見を満喫しています。また、毎年地域のまちかど展覧会に参加し、作品づくりにも力を入れ目標を持って取り組めるように計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中、利用者は思い思いの時間を過ごしている。コロナ禍により制限がある生活でも、制限があるからできないではなく出来ることをしようと取り組んでいる。利用者が自分で文章を考え家族に手紙を書いたり、手作りマスクを作成したりと、出来ることを見つけ取り組むことで生きがいにつながっている。法人全体での行事は出来ないが、事業所で夏祭りや敬老会を行い、利用者にも季節を感じてもらえる機会を作っている。職員は日ごろのケアの中で、利用者本位になっているかと振り返りながら、利用者の笑顔を引き出せるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、グループホーム独自の理念を目につく場所に掲示している。申し送り時や会議の時に学べる機会を設け理念に沿ったケアの実践に繋げている。	理念に「安心できる生活環境を提供し、その人らしく暮らせるよう援助します」と掲げ、支援に努めている。利用者との関りの中で、その人の好きなことや楽しみを見つけ、理念に沿った「その人らしく暮らす援助」が出来るよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年「まちかど展覧会」に参加し、地域の人達との交流の場になっていたが、今年もコロナの為参加を中止した。しかし、次回展示する目的で熱心に作品づくりに取り組んでいる。	コロナ禍により、地域の人達との交流の機会は減っているが、法人発行の「ふれあい」を民生委員や家族などに配り、事業所での様子を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイトに登録して、地域のイベントや認知症カフェ・認知症サポーター養成講座に参加して、認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は予定通り運営推進会議を開催できなかった。コロナ対策に追われ、家族との面会も禁止し外部との接触を極力避けたので、利用者にストレスを与えない様に努力した。	運営推進会議の開催が難しい状況のため、委員の人達に資料を手渡し、関係が途切れないようにしている。コロナ禍が落ち着けば、委員の人達と花を植える計画を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や真庭市内のグループホーム連絡会議が開催できないので、メールや電話で連絡しながら情報交換をした。	高齢者支援課とは日頃からメールや電話でやり取りをしている。初めてのコロナワクチン接種は、行政と協力しながら実施に至った。行政と情報共有やコミュニケーションを大切にしながら、連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で構成している委員会やグループ内で身体拘束をしないケアの意識付けをしている。また各事業所で目標を決めて拘束のないケアに取り組んでいる。	担当委員を中心に、年度ごとに目標を立てて勉強会を行っている。不適切ケアについて勉強し、声掛けやケアを振り返り、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束〇推進委員会の中で虐待について事業所内で話し合い、防止に努めている。真庭市に依頼して、施設内研修を開催していたが実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入所されている利用者は、全員ご家族が本人に代わって金銭管理等を行っている。市で開催される研修があれば、参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、介護保険制度の改定の度に、利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。今回の改定は電話で説明し、封書でお願いした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や地域の民生委員に出席してもらい、運営に関する情報等を報告し意見を聞いているが、今年はコロナ感染防止の為資料のみお配りした。	現在、面会を制限しているため、グループホーム便りを発行し、普段の様子を写真や手紙などで伝えている。家族からの要望はないが、いつでも意見を聞ける体制を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議の報告を職員に伝え、資料があれば共有できるようにしている。また、法人の副主任会議に出席してその内容を他の職員に伝えている。	作品作りやレクリエーションの提案など、職員からの意見を取り入れている。勤務年数が長い職員も多く、職員間の連携がとりやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度構築委員会を設け、現在スケジュールに沿って進行中である。職場の環境については労働安全衛生委員会を定期的に開いて、メンタル面や職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を企画し、必ず1人以上参加し、講習伝達している。しかしコロナ禍で外部からの研修を依頼できないので、オンライン等で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの意見交換や情報交換を行っていたが、今年はコロナの影響で開催できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人となじみの関係をつくり、ゆっくりと本人の希望や困っていること、心配なことなど傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と面談し、不安な事や要望等を聞かせて頂いている。コロナ感染地域で来園できない家族には、電話やお便りを送って様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所になっても、今までと変わらない生活を送れるように、本人の必要としている支援を家族や担当のケアマネさんに情報提供していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)や本人の役割を明確にして作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現状を話し、本人が望まれている事で家族のできる事をお願いしている。定期的に法人の機関誌を送付して、利用者の様子を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は施設に訪問できないので、関係が途切れないよう行事を通して再開できる機会を作っている。	家族と電話や手紙のやり取りを続け、関係が途切れないように支援している。コロナウイルスの感染拡大前には、同じ建物内にあるデイサービスに訪れた知人と再会する機会があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしたり、お互いに助け合って作業できるような場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて家族の相談にのっている。また、移られた病院や施設には、情報を提供し途切れのないケアができる様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりがそれぞれに自分の好きな事を本人で決めてできるように援助している。レクリエーションや個々にあった趣味活動を通して生きがいのある生活が送れるようにしている。	日々の関りの中で、利用者の好きなことや得意なことを把握するように心がけている。季節のことや食べ物の名前など、キーワードを提示することで話が弾み、思いの把握につながることもある。	利用者と長い年月の関りがあり、一人ひとりの楽しみや生きがいなどの思いの把握を行えている。今後も継続して取り組んでもらいたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の談話の中で利用者がしてきたことなど、気付いたことや面会時家族から聞いたことなど、情報の把握に努めている。また、在宅での担当ケアマネから情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態に合わせて日課を決めて、できる事をしてもらいながら無理のない生活をしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や介護職員の意見を参考にして、アセスメントを行い本人の意向を取り入れながら、個々にあった介護計画を作成している。	利用者にそれぞれ担当職員を決め、「気づきシート」を作成している。職員が利用者をより知る機会となり、計画作成やモニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を付けて、利用者一人ひとりのニーズにあったケアを考えて共有しながら実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった介護ではなく、個々にあった支援ができるよう取り組む努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ敷地内の通所事業所やケアハウスとの交流ができる様に計画をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診を定期的を受けている。また、内科以外の受診が必要な時は訪問看護師に連絡して、医師と連携を図り他の病院受診もスムーズに行っている。	家族の協力を得て、入居前からのかかりつけ医への受診を継続している人もいる。協力病院からの往診や訪問看護師との連携がある。緊急時や体調に不安がある場合には、いつでも相談できる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から訪問看護師が毎週1回訪問し、個々の健康状態を把握している。状態が変わった時は相談して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。入院時にはその病院のソーシャルワーカーに連絡して情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と話し合い医療的管理の必要な方は、十分な治療ができるよう協力医に相談しながら今後の方針を考えて説明している。	入居時に、重度化した際について説明をしている。協力病院の介護医療院や法人の関連施設と連携し、重度化した際には家族の希望に沿えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルに沿ってOJTを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体の総合防災訓練を年2回行っている。その内1回は地元の消防団の協力を得て、施設内の誘導避難訓練を実施している。ホーム内で毎月1回自主訓練を行っている。	毎月行う自主訓練以外に、法人内での総合防災訓練に参加している。以前は、火災訓練の実施が多かったが、現在はいろいろな災害に対応できるよう、土砂崩れや地震を想定した訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	衣類整理や掃除の援助に居室へ入る時、本人の許可を得て入室している。重ね着をしている方へも熱いお茶を勧めて、自分から服が脱げる様に声かけをしている。	利用者の意思を尊重し、なるべく自分の思うように過ごしてもらっている。たくさんの衣類を重ね着している人には、「汗をかき過ぎると風邪をひきますよ」など声かけを工夫し、無理強いせずに自ら脱いでもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者の希望や関心を見極めそれを基に本人が選択できる場面を作っている。例えば余暇時間にはそれぞれ好きな作業を選んで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ希望を聞いて支援している。また口に出されない方には、表情や動きから察し希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服が着られるように衣類の整理を一緒にする。また、入浴時の着替えは本人の着たい服を一緒に準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をお願いする時は、本人の意向を確認して強制にならないようにしている。また、誕生日には本人の好きな献立を提供できるようにしている。	節分には巻きずし、春にはヨモギ団子を作り、季節を味わってもらっている。料理が得意な人も多く、調理の手伝いをお願いすることもある。また、献立検討委員会がアンケートを実施し、希望の多かった献立を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立を基に調理している。水分量が確保できるよう、動いた後にはお茶やレモン水等を頻回に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。入れ歯の方には定期的にポリデントを使用している。また歯のない方にも口腔ケアの支援をし、出来ない方には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、自然な生活の流れの中でトイレに誘導している。夜間ポータブルトイレ使用の方も、昼間はトイレでの排泄ができる様に取り組んでいる。	タイミングを見計らってトイレへ誘導することで、排泄の自立支援に繋げている。トイレ誘導時には、「手を洗いに行きましょう」と声掛けをすることで、周りに気づかれぬように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の活動前後には水分補給をしている。夜間にも排泄後には水分補給している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	トイレに立たれた時などタイミングを見て、声かけをして入浴してもらっている。体調の悪い方でも足浴を行っている。また、菖蒲湯やゆず湯等楽しむ支援をしている。	午後からの入浴のため、おやつが終わってから声をかけ、スムーズに入浴してもらえるよう工夫している。また入浴の順番も、利用者の思いを尊重して決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や洗濯干し、調理等の家事全般を職員と一緒にやり、体を動かすように働きかけている。また、室温にも注意して安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に朝・昼・夕とケースに分別し、指示通りの服薬ができるようにしている。服薬は職員が手渡して内服できたか確認している。状況の変化があった時は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を生かし、食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭に出て時期の花や野菜の苗を植えて成長を見に行ったり、収穫し外へ出る機会を作っている。また、施設の玄関の花植えをする時は、ケアハウスの入居者と一緒に作業をしている。	現在、外出は控えているが、気候の良い時は法人内を散歩したり、外気浴をしたりと、できる範囲で戸外へ出る支援を行っている。また、運動不足にならないよう、同じ建物内にある特別養護老人ホームの厨房迄、食器や残飯を持って行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不穩になる方がおられるので、必要な方は小銭程度を所持してもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話がかかった時は、本人に繋いでゆっくり話してもらう。耳の遠い方は、暑中見舞いや年賀状が書けるようにお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを観たり、気の合う人と会話を楽しめるように広いテーブルと椅子を用意し、本人の好きな場所に座っていただいている。利用者に玄関の花を活けていただいたり、作品を飾ったりして自然に話題を提供できるようにしている。	利用者が思い思いに過ごしている様子から、リビングは過ごしやすい空間となっていると感じられる。感染対策として机と机の間を広くとったり、空気清浄機を設置したり、時間を決めて換気を行ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人とテレビを観たり会話できるように、ソファや椅子を置いている。また、食堂には利用者の手作りの座布団カバーを掛けて、安心できる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室の場所が分からなくなっても、本人が大切にしている物や家具、家族の写真、仏壇などを持ち込んで自宅にいるような居心地の良い暮らしができるようにしている。	椅子や机、衣装ケースや仏壇など、馴染みの物を持ち込んでいる。自作の作品をタンスの上や壁に飾り、居心地の良い居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「洗面所」や「トイレ」等の場所はわかりやすく手作りの表示を掛けて、できるだけ一人で移動し我が家のように生活してもらっている。		